

令和5年度 第4回川崎市社会教育委員会麻生市民館専門部会 摘録

■日時 令和6年2月17日（土） 午後1時00分～午後5時00分

■場所 麻生市民館大会議室

■出席委員	麻生区地域教育会議議長（部会長）	井上 俊夫
	麻生区文化協会副会長（副部会長）	横川 博行
	川崎市王禅寺中央中学校長	山本 浩之
	麻生市民館サークル連絡会会長	菅原 陽子
	市民委員	徳田 富美恵
	市民委員	田澤 梓
	和光大学現代人間学部非常勤講師	角田 季美枝
	麻生区PTA協議会副会長	角南 ゆり絵

■事務局 麻生市民館齊藤館長、管理係内藤担当係長、社会教育振興係江上係長、照井主任、石田職員、田中職員、麻生市民館岡上分館相澤分館長

■傍聴者 1名（企画提案会1名、選考委員会（非公開）0名、議事（専門部会）0名）

■議事等

- 1 市民自主学級・市民自主企画提案会
- 2 選考委員会
- 3 議事
令和4・5年度報告書について

1 市民自主学級・市民自主企画提案会

2 選考委員会

3 議事

(1) 令和4・5年度報告書について

事務局（内藤係長）

誤字を含めて訂正が終わっていない部分がある。こちらの方で気付いた点は、これから訂正する。

事務局（齊藤館長）

専門部会の他で、報告書の勉強会をしていただいた際の御意見もある程度反映した。特に目次のところは大きく修正している。勉強会の関係の追加、編集後記、終わりになどを追記修正している。細かな点で修正しきれていない部分もあるが、これから修正していく部分もある。皆様には特に編集後記が反映されているかなどを御確認いただきたい。御自身が記載した内容以外のところについては、部会長と事務局にて確認させていただくこととし、もし修正点などがあれば、今月末までにメールで御連絡いただきたい。

徳田委員）

目次・見出しが整理され、読みやすくなっている。

事務局（齊藤館長）

編集後記他、御自身で寄稿いただいた箇所について修正はないか。（修正なしの返事あり）それでは、これにて終了とさせていただく。麻生市民館専門部会に令和4年度・5年度の2年間にわたり参加いただき、市民館の管理・運営等について協議・検討いただき、感謝申し上げます。本日をもって今期の麻生市民館専門部会の開催は終了となる。今後とも市民館の管理・運営等にお力添えいただくようお願いしたい。

【麻生市民館・岡上分館市民自主学級・市民自主企画事業企画提案会】 摘録

麻生市民館市民自主学級・市民自主企画事業提案会

13：25～提案会

学級 3件

- ・地域活動のパートナー ChatGPT を学ぶ
- ・学ぼう！知ろう！共生社会の実現に向けて
- ・新しい！ご隠居スタイルを目指して。

企画 3件

- ・哲学風カフェあさお
- ・ナゼ？を深掘る夏にする！ミュージカル映像で学ぶ障がい者の今！
- ・図書館ってなんだろう？「ニューヨーク公共図書館」を見る前に知っておきたい

(提案会の説明)

【企画提案者よりプレゼンテーション】

市民自主学級

- ・地域活動のパートナー ChatGPT を学ぶ（個人提案：岡倉 進）

質疑応答

菅原委員)

大学との連携とのお話があったが、講師はどのような方を想定しているか。

提案者)

提案が通ってからの声掛けになると考えており、講師は今年度の市民エンパワーメント研修で担当された講師にお願い出来ればと考えている。

井上部会長)

マニュアルを作成して、ChatGPT をパートナーとして活用するとのお話だったが、活用する地域活動の具体的なイメージとしてどのようなものを考えているか。

提案者)

対象とする地域活動は何でもありで、ChatGPT に聞くと様々な回答が返ってくる。Web 検索とは違い、指示を出すとそれに対する回答が返ってくる。介護とかどういった内容でも大丈夫だと考えている。指示の出し方をプロンプトと言うが、そうしたプロンプトのやり方なども講座の中で講師から教えて貰えると良いと考えている。

角田委員)

大学とかでも推奨していることもあるが、出てきた答えをそのまま使うと間違いがあったり困ることもある。ChatGPT で出てきた答えの信頼性について、事業の中で多言語化という話もあったが、正確な情報の確認方法についてどのように考えているか。また、マニュアル作りについて予算に入っていないようだが、ChatGPT の使い方などのマニュアルは必要だと思うが、そのあたりはどのように考えているか。

提案者)

仰ったように回答が正しいかは、自分の専門分野であれば分かるが、他のことは分からないと思う。そのため、全てを AI に任せるのではなく、問題解決の最初の手掛かりとして活用していくことなどを考えている。また予算についてはマニュアルを紙で配布しようと思えば予算が足りないが、費用を掛けずに Web などの媒体で発信できればと考えている。

・学ぼう！知ろう！共生社会の実現に向けて（共生社会実現グループ）

質疑応答

菅原委員)

講座の内容としては、認知症のことに取り組まれるとのことだが、グループ名や講座のタイトルでは特に認知症と謳っていないことには、何か考えがあるのか。

提案者)

あくまで仮称ということで、高齢者も認知症の問題だけでなく様々な問題もあり、また障がい者や弱者など様々なことをひっくるめて共生社会を実現していきたい。その取っ掛かりとして認知症を取り上げたい。

菅原委員)

認知症のことをもっと知りたい・話したいと思っている方が、ここに行けば良いって分かるところがあるかと思った。

角田委員)

講座 11 回の内容について、どんな講師で、どんな内容を想定しているか。

提案者)

提案が通った段階で、「おれんじあさお」などの団体とも連携・相談していきながら進めていきたい。

井上部会長)

講座やグループワークなど実施した内容について、学習の効果・評価をどのように考えているか。

提案者)

評価はきちんとやっていくべきと思っている。検討する。

井上部会長)

11回の講座の中で、毎回確認をしていただきながら、進めていただくと良いかなと思う。

田澤委員)

区で認知症サポーター養成講座を実施していると思うが、そういった事業と今回の提案にはどのような違いがあるか。

提案者)

私たちもその講座を受講したが、私たちとしては現場に展開していく行動隊と考えている。

・新しい！ご隠居スタイルを目指して。(個人提案：植木 昌昭)

質疑応答

菅原委員)

「新しい！ご隠居スタイル」の新しいとは 75 歳以上をどのように生きていくかを表現しているということか。

提案者)

私が 2004 年から、やまゆりで「目指せアクティブシニア」の講座をやっており、75 歳にポイントを置いて、「それまでの自分の人生を考えてみよう」とお話ししていた。その時は人生 80 年という認識であった。ところが、自分が 75 歳になってみると人生 100 年時代と言われるようになったため、仰られているように 75 歳以上の生き方を考えていく必要がある。

菅原委員)

提案書の中で、「ストーリー性がうすい」と書かれているが、提案の内容としてどのように濃くしていきたいと考えているか。

提案者)

区では地域振興課、市民館など様々な部署で色々な講座をやっているが、重複した内容もある。それを一つのストーリーでまとめるというのが今回の提案の趣旨。健康についてはこう、気持ちの面についてはこう、というようにトータルとしてのストーリーを作りながら人生 100 年時代に向けて 75 歳以降のライフスタイルをみんなで考えてみる。正解は分からないけど、みんなで語り合えたら楽しいのではないかと考えている。

角田委員)

30 名くらいの方が集ってコミュニケーションすることは、ファシリテートなども大変になる。

どのように参加者とのコミュニケーションを考えているか。

提案者)

これまで 20 名くらいが集まってコミュニケーションしてきたが、まず自己紹介カードなどで互いのことを知り合う。講座の途中で飲み会などで親睦を深めることも考えている。

田澤委員)

今回の提案のゴール、どうなったら良いなどの目的はどのように考えているか。

提案者)

最終的には「希望のシニアプロジェクト」を立ち上げたい。それまでみんなで色々と議論した内容を行政にフィードバックする。団体化して、行政へ意見要望なり、議論を深めていきたい。

井上部会長)

この手のことをずっとやって来られて、経験も豊かだと思うが、市民館の市民自主として提案されるのは、今後も続けていきたいということで提案するのか。

提案者)

その通りである。

徳田委員)

印刷費が高額かなと感じるが、具体的にこんなものを作りたいなど想定はあるか。

提案者)

チラシやポスターの他、それぞれの講師による資料がどの程度になるか分からない部分もありそうした資料代なども含んで考えている。

市民自主企画事業

・哲学風カフェあさお（ライフスクエア）

質疑応答

菅原委員)

講師の方の専門分野、どういった方に講師をお願いするのか。

提案者)

色々なアイデアがあるが、例えば大学の先生で、哲学・人生・思想・人間心理などに関わる先生に授業を行っていただき、そこから色々な話題で語り合ったりするのも面白いと考えている。

菅原委員)

「昔のお寺」とのお話しもあったが、今のお寺も変わっていない。現代は皆さんが働いて、時間が無くてお寺に来ない・行かないということは勿体ないと感じている。地域のコミュニティの活性化と書かれているが、具体的にどのようなことを想定されているか。

提案者)

麻生にも様々なサークル・団体があると思うので、そうしたところとのコラボレーションもしたい。単に語り合うだけではなく、例えば料理サークルの方とコラボして、一緒に料理しながら、一緒に語り合いながら食事をしたり。また緑の多い地域で公園もたくさんあるので、公園や緑の中を散策しながら語り合う。健康効果も兼ねて哲学カフェをやるのも面白い。このように地域の様々なサークル等と連携していきたい

山本委員)

適正人数などもあると思うが、どのくらいの人数での語り合いをイメージされているか。
また、自己開示することを恐れる人が多くなっている中で、その辺りの不安をどのように取り除いていくのか。

提案者)

人数としては 10 人以内が、経験上でも適切かと思っている。また市民館で実施している哲学風カフェも人数が多い場合は、グループを分けて実施しています。自己開示については、皆さんにとって安全・安心な場だと感じて貰えるようにルールを明確にしたい。プライバシーの確保や、お互いにしてはいけないことなどのルールを共有した上で参加してもらおう。また、自己開示は強制するものでもなく、皆さんが思い思いに過ごせる、聞くだけに専念する方もいらっしゃる、話す自由もある。それぞれのペースが尊重される場に出来ればと考えている。

角田委員)

「哲学風カフェ」の「風」をつける理由はなにか。また、現在の市民館のやり方は、講師を設けず、テーマを決めて、「来たい人がどうぞ」という感じで実施をしているが、講師を呼ぶ理由、講師を呼ぶ回数はどれくらいか。さらに、市民館では、麻生区民に限らず参加しているが、地域コミュニティとしてはどの辺りまでの範囲を想定されているのか。

提案者)

「風」については、哲学というものにがっちり固めるよりは、自由な雰囲気で行いたいという思いがある。時には雑談や思い出話などに脱線したりということもあるが、そういった自由な雰囲気で行いたい。「哲学」としてしまうと、学問的にもこうだと定義づけされる面もあるので、自由な雰囲気を出すために「風」を入れている。講師については、語り合いがベースになるので、講師を呼ぶ割合として大きくは考えていない。あくまでも皆さんの居場所であり、とまり木であり、自由な語らいの場であることをベースにして、活動に余裕が出てきたら、参加者の皆さんの意見も募りながら、大学の先生や地域のお寺のお坊さんに来ていただくと面白いのではという考えである。それぞれの人生観なども話していただくことで、それが起爆剤になって

語り合いも盛り上がるかなとも考えている。回数などの具体的なところは厳密には考えておらず、皆さんと話し合っ決めていきたい。地域コミュニティのベースは麻生区がメインですが、地域外の方が多いなどの状況になってきたときに、皆さんや市民館職員と相談しながら進めていければと考えている。

田澤委員)

希望する人が参加をするというのは都度募集するということか。それとも一回の募集で、同じ人が参加していくイメージか。

提案者)

自由な形にしたいので、いつ来ても参加できるようにしたい。

田澤委員)

都度参加の場合、目指している居場所・とまり木というイメージに結び付くためには、一回の参加だけでは難しい。多くの方、多様性・多世代の方に来て欲しいというのは分かるが、どこにターゲットを絞っているのか、どういう人に来て貰いたいのかのお考えはあるか。

提案者)

ターゲットについては逆に絞らないという風に考えている。過去の自分の仕事の経験では、ターゲットを中高生や20代、30代という条件が絞られていた。ただそういった居場所を運営していく中で、ターゲットを絞らない場を作りたいと。一年ほど市民館の哲学風カフェに参加して、参加者が絞られていない多様性・多世代の魅力を感じ、絞らないことの魅力があると考えています。また場はみんなで作り上げていくものと考えており、だからこそゴールを設定していない。また、多様な方と一緒に作っていければと考えている。また、完全に安全・安心な空間を最初からつくることは無理だと考えており、参加者の皆さんと一緒に場を作っていく。来る自由もあれば、来ない自由もある。そこには流動性があるかも知れないが、トライアンドエラーを繰り返しながら進めていく。来なければいけないという縛りがあるとそれがストレスにもなってしまう。ルールなどの外枠は用意しながらも、皆さんと一緒に居場所・とまり木を作っていければと考えている。

・ナゼ？を深掘る夏にする！ミュージカル映像で学ぶ障がい者の今！（AyaArtsCompany）

質疑応答

徳田委員)

音楽劇についてお話しが無かったが、どのように取り扱われるのか。

提案者)

前回と同じように上映会を行う。音楽劇は子どもたちに、重度障がいの方の生活を楽しんでもらうエンタメのコンテンツとして作っており、制作過程や各シーンを作った目的なども説明を

しながら上映をしたい。今年度の実施では、そうした説明が出来なかったもので、上映と説明をセットで行いたい。

角田委員)

大人向けの内容と子ども向けの内容で分かれている気がするが、子ども向けとして飽きが来るなどの課題は今年度も同様にあったと思うが、工夫についてどのように考えているか。

提案者)

子どもは長い時間だと飽きてしまうので、ミュージカル上映自体は 45 分。その後、休憩して、各シーンの説明や質問、何に興味があったのかなど聞いて、作品に対する理解を深めて貰えればと考えている。また、作品のモデルになった方で、ドキュメンタリー映画監督の方がおり、ゲストとして呼び出して映画製作の過程などもお話し出来ればと思う。ターゲットとして自由研究というテーマで小学 1 年生から 6 年生をターゲットとしているが、各セッションの時間を短く区切ることを考えている。

井上部会長)

今年度の集客として 16 人で、午前・午後一日での実施ですが、今回の提案も一日での実施を考えているのか。

提案者)

今年度は重度障がいの講師を 3 名呼びましたが、当日体調不良で来れなくなるリスクも高かったため、当日誰かが来れなかったとしてもカバー出来るような形での開催を考え、一日での実施にしました。また、複数日での実施にした場合に、何日にも分けて講師が来ることが難しいかなと考えていた。今回の提案としては重度障がいの講師ではないため、別日での開催でも良ければそのようにさせていただきたい。

井上部会長)

午前・午後で延べ 16 人とのことだが、午前 8 人、午後 8 人ということか。

提案者)

入れ替わりも多少ありましたが、ほぼ同じ方が参加されていた。

田澤委員)

今年度の実施については、夏休みの終わりか、夏休み明けの時期だったように思うが、開催日程については配慮いただいた方が良い。

提案者)

麻生区の小学校の夏休みの期間も調べた上での実施でしたが、自由研究のテーマとするには時期が遅かったと感じており、今回の提案では 7 月の後半を目途に開催したい。

・図書館ってなんだろう？「ニューヨーク公共図書館」を見る前に知っておきたい（個人提案：岡本 正子）

質疑応答

菅原委員）

映画の上映について、費用の計上は経費のどこに記載されているのか。

提案者）

「その他」に 66,000 円を計上した。

菅原委員）

課題の解決に、「市民のお困りごと」との記載もあるが、どのようなことを考えているか。

提案者）

図書館は本を読むだけでなく、以前、夏休みの終わりに「死にたいほど学校に行きたくない子は図書館においで」という SNS を流して話題になったことが鎌倉図書館であった。図書館というのは困っている人も相談することができるというようなこともあると思う。別の窓口があるということになるかもしれないが、そういったアナウンスも出来るはずだと思う。地域のいろいろな困りごとを図書館で、誰でも気軽に行けるような場所になれば良いなと考えている。

角田委員）

内容を見ると、1～5 回を通して参加してこそ、コミュニティが出来ていくように思うが、自主学級ではなくて何故自主企画として提案をされたのか。謝礼が高いように感じますが、内容はどのようなものか。

提案者）

単体でどの回に参加しても、ある程度図書館のことを知ってもらえるような内容にしている。謝礼については、1 回目の講談師、2 回目の図書館ボランティア、3 回目と 5 回目に図書館のことについて本を書かれた著者への謝礼として考えています。

徳田委員）

講座に来ないと図書館の魅力は分からない、図書館の利用率としても約 1 割とのことで、残りの 9 割の人たちに向けた仕掛けとして何か考えていることはあるか。また、この講座で何をしたいか。図書館に来る人を増やしたいのか、図書館のこれからのあり方を皆で考えたいのか、「ニューヨーク公共図書館」はアメリカ社会の仕組みにも関わる映画だと理解しているが図書館の仕組みに留まらない社会の仕組みについても話を広げたいのか、どのあたりまでお考えか。

提案者）

図書館の利用者を増やしたいというのが根底にある。また利用して良かったと思う人を増やし

たい。良かったに繋げるには、サービスの拡充をしていく必要があり、そのことを伝えていく必要があると考えている。図書館の色々な可能性を感じる、社会の色々な問題を感じるという側面もあると思っている。最終的には図書館の話をきっかけに、街のことや社会課題にも目を向ける機会にし、また図書館はそうしたことを考えていくような拠点であってほしいと考えている。

岡上分館市民自主学級・市民自主企画事業提案会

15:25～提案会

学級 0 件

企画 1 件

- ・ ボッチャを通じたコミュニティづくり

(提案会の説明)

【企画提案者よりプレゼンテーション】

市民自主企画事業

- ・ ボッチャを通じたコミュニティづくり (岡上ボッチャ倶楽部) 3 年目の提案

質疑応答

井上部会長)

今年度の 1 回目が 19 名、2 回目が 22 名の参加であったが、リピーターはいたか。

提案者)

大会にも参加しており、そこで知り合った人を誘って新たに入ってくる人もおり、出入りは割とある

井上部会長)

女性が多いのはどういう理由か。

提案者)

大会では男女の比率は半々くらい。多世代が参加されており、あまり男女比で考えたことが無かった。

井上部会長)

障がい者の方はいるか。

提案者)

正式なメンバーではなく、臨時に来てくれる方々はある。その方々は、他のクラブに属してい

るなど、毎回の参加は難しいが、時間がある時に参加してくれるという状況である。

田澤委員)

令和7年度以降、4年目以降の活動の継続についてどのように考えているか。

提案者)

町内会や小学校などから直接問い合わせが来しているところもある。市民館事業としてはボランティアとして続けていきたいとも思っているが、ハッキリと考えもまとまっていない。何らかの形でやっていければと考えている。

菅原委員)

スポーツとして過激ではないのでケガは無いと思うが、実施の際の保険などはどのようなになっているのか。小学校など活動を広げていくと、そういった面でも問題も出てくるような気がする。

提案者)

これまでは保険に入ったことがない。ボッチャでは、ケガをすることは無いと思っている。また、市主催の大会でも保険には入っていないようである。来年度は健常者に車いすに乗ってボッチャをやってみようとも考えており、保険のことも含めて岡上分館とも相談して進めていければと考えている。

角田委員)

今回、岡上で実施しないのはなぜか。岡上での地域コミュニティづくりの部分をもどのように考えているのか。知り合いになることが、地域コミュニティづくりになるということにすぐつながる訳ではないと思っているが、「成果」として地域コミュニティや地域への愛着が醸成されたと捉えられている理由について教えていただきたい。

提案者)

1年目、2年目と岡上で実施をしてきて、発展させようとのことで岡上以外の地域でと考えている。

角田委員)

区全体に広げると、別の繋がりが出来ると思う。これまでの岡上での繋がりとどのようにしていくのか。ボッチャを楽しむ人を増やしていくことが目的ではなく、ボッチャを通じたコミュニティづくりが目的であるはずである。そうした意味でも、チラシなどでの呼び掛けとして、「ボッチャを楽しみませんか」ではなく、コミュニティをつくるということが見えてくると良い。岡上と麻生全体とのコミュニティを繋げることに意義があると思うので、その辺りを工夫していただけると良い。